とよなか魅力エッセイ

百年ののれんを守る

和田 亮介さん
和田哲株式会社元代表取締役会長

Profile

昭和 6年 島根県松江市生まれ
昭和29年 島根大学文理学部卒業。東レ株式会社入社
昭和33年 和田家へ入り婿
昭和36年 和田哲株式会社入社（業種 寝具素材及び製品）
昭和50年 同社三代目社長就任
平成12年 同社会長就任
平成28年 同社会長退任

大阪商工会議所名誉議員
平成 8年 藍綬褒章受章
平成11年 大阪市市民表彰 文化功労部門
昭和33年から平成28年4月まで岡町南に在住。

著書
「扇子商法」「三代目まんだら」「船場の目」「船場からくさ」「船場往来」「乱世を生きる経営」「あきない夜咄（よばなし）」「船場吹き寄せ」

私は、明治40年（1907年）創業の船場の中小企業に三代目として迎えられ、創業者である義理の祖父から〝商人としての心得〟をたたき込まれました。「小さな会社がいつまでも生き続けるためには、どんな不況にも潰れないような体制にしておかないといけない」と、必要以上に人を増やさない、借金しない、無駄をしない姿勢を好況のときにも一貫してもち続ける大切さを学びました。利益や売上を大きくすることよりも企業の永続性を第一に考えた経営方針です。そのために祖父は、仕入れ先、売り先双方を大切にし、「お蔭様」「有り難い」の気持ちを忘れませんでした。従業員に対しても毎日一人ひとりに声をかけて、その顔色やしぐさから、健康状態や仕事の進み具合まで観察していました。仕事の失敗はその場で指摘する一方、うまくいった時はねぎらいの言葉をかけて、従業員を一人前に育てる努力を惜しみませんでした。

企業経営の本来の目的は、会社が儲かることではなく「人の幸せ」のためです。しかし、組織が大きくなりすぎると、ともすれば組織を維持することが目的化してきます。むしろ中小企業のほうがやりがいのある働き方ができるのです。経営者と従業員の距離が近いので、顔を合わせて話をする機会も多いし、一体感をもちやすくなります。また、従業員一人ひとりの個性を日頃から良く知っているからこそ、適材適所に配置することで、期待以上の力を発揮してくれることがあります。そんな部下の成長を間近で見ることができるのも、中小企業経営者ならではの醍醐味。中小企業のメリットを活かすことで小さくても質の高い組織をつくることができます。これを私は「人本主義」と言っています。「人」が大切ということです。

ただし、どんな商売でも、楽をして儲かるものではありません。人一倍努力し苦労して、人のしないことをしていかないといけない。経営者は、「苦労のしがいのある会社」をつくらないといけないのです。

私が船場の生活で学んだことは、経営の考え方だけでなく、人間の奥深い心の機微や悲劇・喜劇に満ちた生身の人間の姿です。中小企業経営者であったからこその人との出会いや多彩な経験が、私自身の人生を豊かなものにしてくれました。

目次

特集 百年企業をめざして 2
とよなか魅力エッセイ
百年ののれんを守る 4
オンリーワンのものづくり 6
鉄道、船舶、航空分野で活躍する豊中の企業 9
文化創造を支える 10
異色のコラボによるスイーツ開発プロジェクト
「Toyonaka Sky Sweets」 12
豊中で農業を守る 14
飛躍する女性経営者たち 16
豊中の産業豆知識